

3-2 稼げる農林水産業 P J

■ 取組みの目標

- ・意欲ある担い手の育成や確保を図るとともに、生産者のモデル的取組みを支援し、生産から加工、流通、販売までをセットで強化することにより、稼げる仕組みを構築します。
- ・本市の地理的特性、気候、生産状況などを踏まえ、地元高校等との連携や、高品質・高付加価値化を進めながら、マーケットインの発想に基づいた、戦略的なブランド化を推進することにより、一次産業の成長産業化を図ります。
- ・市内の教育機関や流通事業者等との連携により、地産地消を推進し、域内消費の拡大を目指します。

■ 事業主体

市、高校、生産者、関係団体、産業支援機関、市内外企業等

■ 構成する施策

① 稼げる仕組みの構築

生産設備などの集積・集約化による生産規模の拡大や、先端技術（スマート農業・林業・水産業）の導入による生産効率の向上、高収益作物への転換など、市場のニーズをとらえた作物の安定的な生産を図るとともに、物流の効率化等を通じた安定した流通の確保や販路の拡大を進め、生産者の稼げる仕組みを構築します。

② 担い手の育成及び確保

地元高校や生産団体等との連携に加え、新規就農者を支援するワンストップの相談窓口を設置し、意欲ある担い手の育成を支援します。また、農林水産業に高い関心を持つ都市生活者等を、イベントや就業体験等を通じて新たな担い手として誘致するほか、女性農業者や定年帰農者の支援、農福連携の推進など、多様な担い手の確保に向けた取組みを推進します。

③ 資源の保全・保護とブランディング

環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業や、稚魚放流を支援するなど、つくり育てる漁業の推進等により、資源の確保を図るほか、産品の高品質・高付加価値化を推進し、戦略的なPRを実施することで、一次産品のブランド化を進めます。

④ 域内消費拡大

市内教育機関と連携した食育指導、流通事業者と連携したPRや「魚食の日」の取組みなどを通じ、地場産品への理解・関心を深め、地産地消を推進します。

■ SDGs



■ スケジュール

項 目	R3	R4	R5	R6	R7
稼げる仕組みの構築	スマート農・林・水産業の検討・実施				
	生産コストの低減等による経営基盤の強化				
担い手の育成及び確保	新規就農者支援窓口の設置				
資源の保全・保護とブランディング	環境負荷低減に配慮した取組みへの支援				
	高品質・高付加価値化等によるブランド化の推進				
域内消費拡大	食育の推進				
	地産地消の推進				

K P I		
	現状値	目標値
認定農業者数	265 経営体 (2019 年度末)	298 経営体
担い手への農地の集積率	26% (2019 年度末)	68%
林業就業者数	323 人 (2015 年)	329 人
沖合漁業水揚金額	730 百万円 (2019 年)	2,397 百万円
沿岸漁業水揚金額	486 百万円 (2019 年)	2,005 百万円
沿岸漁業新規就業者数 (2022～2025 年度累計)	—	8 人



いわき産米のプレミアム化



教育機関と連携した食育指導